

令和 4 年度内部統制アクションプランの作成に当たって

令和 3 年度内部統制アクションプランの取組状況を踏まえ、令和 4 年度内部統制アクションプランを作成する。なお、特に令和 3 年度の内部統制に関する状況、運営点検会議における委員の意見や職員意識調査の結果等を踏まえつつ、令和 4 年度の主な課題を念頭に置いて作成するものとする。

【令和 4 年度内部統制アクションプランに反映されるべき事項】

▶ 令和 3 年度の内部統制に関する状況、職員意識調査の結果等を踏まえた事項

① 部署横断的な情報共有の取組 [令和 3 年度職員意識調査の結果等を踏まえた事項等]

▶ 令和 4 年度の主な課題に関する事項

② リモート環境を活用した意思疎通の円滑化 [理事長裁量経費の投入]

③ 人材育成に焦点化した新たな評価制度への移行 [目標マネジメント制度（新制度）の導入]

【考え方】

① 部署横断的な情報共有の取組（内部情報伝達における取組の充実等）

令和 3 年度職員意識調査の結果を踏まえ、内部情報伝達において発信方法の工夫を行うなど、取組を充実させる。

◇ 令和 3 年度職員意識調査における質問・回答及び自由記述回答（抄）

問 3（3） J S C では、主に掲示板（J S C ポータル）を通じて、法人の動きや他部署の取組等に関する情報が発信・共有されていますが、あなたにとって十分だと思いますか。

【回答（N=695）】 十分だと思う。[125（18%）] どちらかという十分だと思う。[357（51%）]
どちらかという十分だと思わない。[149（21%）] 十分だと思わない。[33（5%）]
わからない。[31（4%）]

【自由記述回答の一例】 「過去の情報が埋もれ、必要な時に必要な情報を取り出すことが難しい」
「重要であるか否かが分かりにくい」「情報を部署別もしくは内容別に整理すべき」

② リモート環境を活用した意思疎通の円滑化（I T 関係機器の整備）

令和元年度から、法人全体に共通する業務効率化を図ることを目的として、理事長裁量経費を活用し、事務処理の電子化をはじめとした J S C 全体の組織運営における中長期的な課題解決を図ってきたところ。本部・支所間、支所・支所間及び各施設との意思疎通の円滑化を図るため、I T 関係機器の整備を実施し、J S C 組織の業務改善・内部統制の推進を図る。

◇ 令和 4 年度理事長裁量経費を活用した課題解決の計画について（抄）

災害共済給付業務のこども家庭庁への移管に伴う学校安全関係業務の変革に適時適切に対応するために、本部・支所（地域事務所）間及び支所・支所間のリモート環境を活用した意思疎通の円滑化を図る必要がある。

併せて、各施設（国立競技場・国立代々木競技場・H P S C ・国立登山研修所・スポーツ博物館）との意思疎通の同様の円滑化を図るとともに、業務効率化や多様な働き方への対応等を図るためのテレワークも推進する必要がある。

③ 人材育成に焦点化した新たな評価制度への移行（持続可能な組織の形成を見据えた勤務評定制度的見直し）

「人事に関する基本的な考え方」（令和 2 年 3 月 2 7 日役員会決定）を念頭に、職員一人ひとりが人間関係構築力を高め、主体的に業務に臨む姿勢や業務遂行力の向上を図ることを目的として、「目標マネジメント制度（新制度）」を導入する。

◇ 人事に関する基本的な考え方（令和 2 年 3 月 2 7 日役員会決定）（抄）

「効果的・効率的な J S C 全体のミッション達成の実現に向けた効果的な人材育成を実現するため、『評価』、『研修』、『異動』の一体的な運用等の推進」